

保育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な体と豊かな心を持つ子どもに ・素直で、思いやりのある子どもに ・遊びも仕事も学ぶことも好きな子どもに ・自然や美しいものに感動できる子どもに
------	---

一 当園知的教材研究、指導講師（平田匡邦先生）による評価

幼稚園教育課程と保育指針の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園がこれから担う役割について検討する。

重点項目	具体的な取り組み	自己評価と課題	平田先生コメント
幼稚園教育要領、保育指針を理解し、教育課程、保育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの静・動をバランス良く取り入れて、子どもたちが集中できるようにする。 ・戸外遊びも自由遊びの前に誰もが関わられるような体力作りを取り入れ、クラス・学年の友だち関係を密にする。 ・異年齢の保育を充実させ、年齢に合った姿勢が持てるよう、自信をつける。 	<p>A:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝や、夏期・冬期などのお預かり保育は、異年齢の縦割り保育や、ペアのクラスで一緒に過ごしている。子どもたちにとっては、初めは緊張した面も見られるが、日を増すごとにだんだん慣れて来て、園内でお友だちを見かけたら、うれしそうに声掛けする姿も見られる。職員も違うクラスの子どもの様子が分かり、皆で子どもたちに対応できる。通常保育の中でももう少し異年齢保育を取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流は、子ども達の成長にとっても大切だと賛同いたします。集団生活のなかで、小さい子の面倒をみたり、大きい子のまねをするなど、異年齢との関わりは、人間として大きく飛躍させてくれるものと思います。普段の保育活動でも、行事などを通して定期的な異年齢交流ができるといいですね。
保育の在り方、子どもへの対応の仕方の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・まず保育者の方から、子どもたち、保護者、来客者に元気よく挨拶する。 ・子どもたちへの言葉がけも、子どもの目線に合わせ、目をみてゆっくりとわかるように話す。口調も命令ではなく、納得できるよう、同調してあげる。 ・けんかななどの問題が起きた場合には、双方の気持ちを聞き、納得した上で、仲直りしてもらおう。その後もクラスのみんなでその事について、話し合う。 	<p>B:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声をしっかり出すカリキュラムもしているのので、朝の第一声として、自分から挨拶ができるようになってきた。 ・誰に聞かれてもおかしくないよう、きれいな言葉で、子どもたちの耳に残るような言葉がけに徹している。 ・カリキュラムを進めていくのに、個人差もあるので、ゆっくりと理解してもらいながら、日々の目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松原ひかり幼稚園の印象は、子ども達が気さくで明るく接してくれることです。挨拶も自分からしっかりできる子どもが増えてきました。先生達の対応もいつも気持ちがよいと感じています。 ・カリキュラムでは、常に一人ひとりをよく観察することがとても大切です。その結果が次の保育に繋がります。
保護者との連携、信頼関係、子育て支援の強化 地域住民との相互理解	<ul style="list-style-type: none"> ・園だより、クラス便りの発行 ・HPに日々の保育の様子を掲載 ・保護者メール配信 ・保育参観 個人懇談 保護者役員会 ・未就園児教室 保育体験 ・保育オープン DAY ・夏祭りの実施・松原市市民祭り参加 ・地域の小学校との交流 	<p>A:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内行事での意見があったら、役員会での会議でみんなの声を聞き、それを基に職員で考えて、解決にあたっている。 ・未就園児教室を充実させ、たくさんのお友だちの入園となるよう、職員一丸となって保育にあたっている。 ・地域との交流は、なるべく参加するよう、保 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長は、保護者にとって一番嬉しいこと、またそれが評判になって幼稚園の口コミが増えてきます。それには、子どもの様子を入園前だけでなく一年を通して見られる保育公開が定期的に開催されるといいのではと考えます。（在園の保護者・未就園児の保護

	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方への配慮・あいさつまわり・お礼 ・松原市政府ティーコミュニティ防災訓練参加 ・幼年消防クラブ「防火パレード」 ・松原警察オープニングセレモニー参加 ・高齢者施設の方がたとの触れ合い・豆まきのご協力 	<p>護者にも声掛けをし、皆で協力し合って催事に参加している。そうすることで、災害時には、助け合うことができると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校とも連携しながら、入学後がスムーズにいくよう、子どもたちの把握に努めている。 	<p>者を問わず)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中での幼稚園活動も多方面にわたり積極的に参加がなされ、良好な関係が構築できていると感じます。
<p>安全管理と施設設備の点検、補修,管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正門その他の場所での防犯カメラの設置 ・防災避難訓練の実施 ・不審者侵入避難訓練 ・警察と連携した防犯教室 ・消防署と連携した防火教室、花火指導、避難訓練 ・遊具施設や危険箇所、故障のすみやかな補修 ・災害危険、特別警報等の緊急時のマニュアルの確認 	<p>A :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正門の警備が終わったら施錠して、防犯に気をつけている。 ・毎日園庭遊具の点検をして、遊ぶのに支障がないか等確認している。避難に必要な場所がきちんと確保されているか、毎日チェックしている。 ・避難訓練も、少しずつ内容をいろんなパターンに変えて、練習をしている。 	<p>最近の地震や豪雨・台風などの災害では「想定外」ということを耳にします。何が起きるか予想しづらくなった昨今、防災については常日頃から「想定外」をイメージして対策を講じなければならぬと考えます。</p> <p>職員間で防災をテーマにした話し合いを定期的に開催してください。</p>
<p>子どもの健康と安全への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時の視診 ・生活習慣の確立 ・内科・眼科・耳鼻科・歯科検診と身体測定 ・保育環境の日々の清掃、衛生管理、整理整頓 ・自園給食での栄養バランスの改善、アレルギーの細かい対応 ・空気清浄器の設置 ・感染症が出た際の園内の消毒を徹底し、感染拡大をふせぐ ・夏は園舎内、園庭に蚊取り線香を数か所おき、子どもたちには虫よけスプレーやミストをこまめに使った。 	<p>A :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの元気な平常の姿をしっかり把握し、視診や保育中の様子に注意する。 ・給食時、アレルギー対応の献立には、個人個人メニューをしっかり把握して、給食員さんとも確認する。 ・給食を食べる量・調理法など、みんなでクラスの様子を報告し合っている。それで、気になることは、給食員さんとのやりとりのノートに記入している。 ・子どもたちの手が触れる所などを中心に、毎日消毒して、清潔にしている。 ・バスで嘔吐した場合は、処理した後、園到着までに連絡をし、着いたらすぐに待ちうける職員が対応できるように連携をとっている。 	<p>手洗いやうがいなどの衛生面の基本的な予防措置は、指導する保育者側と実行する子ども側との両方の意識・行動が伴わなければならないと考えます。</p> <p>子ども側では、しなくてはいけないだけでなく「どうしてやらないといけないか」「どのようにするか」などの意識を持ってもらうことが大事です。当たり前前のことが理由も理解し、しっかりできることが一番です。</p> <p>一方、保育側では、指導したことがどのように実践されているかを常に観察することが大切です。また、保育者間の情報共有も積極的にしましょう。</p>

今後の課題

子どもたちが、自ら考える力を養い、反映できる保育のやり方、取り組み方、環境設定を考えていきたい。

子どもの認定により、手紙の内容や、事務処理が違ってくるので、間違えのないよう、保護者との確認もとりながら、丁寧に処理する。

預かり保育の人数も増えてきているので、保育内容に飽きが来ないように、内容の見直しをして、充実を図る。

今後の課題について（平田先生コメント）

- ・カリキュラム活動

決められた保育活動を実践することは大事ですが、子ども達が「どのように・・・」が一番大切です。常日頃から、一人ひとりを観察する目を養いましょう。

- ・安全や防災

安全・防災・衛生対策は保育の前提です。職員間で問題意識を持ち定期的にミーティングをし、備えましょう。